

2018.3.10

121

もくじ

5

2

寄稿

京都の文化遺産を守り継ぐために  
「三つの宝もの—鞍馬寺隨想—」

特集

京都の彫刻・工芸品  
「上徳寺の木造阿弥陀如来立像」

京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課技師

-1-

鞍馬山博物館学芸員

1-

曾根 祥子

山下 紵美

10 保護財団の活動



公益財団法人 京都市文化観光資源保護財団  
Kyoto cultural tourist resources protection foundation

# 三つの宝もの－鞍馬寺隨想－

曾根 祥子

「くらまさん」、古えから親しみと畏敬の念をこめて、京の人にくちづけられてきたお山。

山裾を鞍馬川、貴船川の清流が縫う標高569メートルの鞍馬山の中腹に、南面して鞍馬寺の本殿が建つ。全山に満ちる宇宙の力、宇宙の理法を「尊天」として尊崇する「鞍馬弘教」の総本山である。鑑真和尚の高弟、鑑禎上人（思託律師）が、夢告と鞍を負う白馬の佳瑞に導かれて草庵を結んでよりこのかた、あまたの人々に崇められ親しまれてきた。

お山には、三つの宝ものがある。一つは、「京都に最も近く最も深い、しかも社寺林として最後まで残る」と形容される自然である。自然度の高さも種類の多さも群をぬいている。

木の根道や極相林といった独特的な景観があり、和名に「クラマ」を冠するもの（クラマゴケ、クラマトガリバなど）、日本での第一発見地が鞍馬であるといわれているもの（ニシキマイマイ、モリアオガエルなど）も数多い。

お山では、自然是天からいただいた宝もの、尊天の顯現－宇宙の理法が象になったものと捉え、生きたる大藏經－さまざまなどを教えてくれる先生として尊んでいる。花も鳥も虫もキノコも、人間を含めたすべて、森羅万象は、一つずつが宝珠として時空を超えて縦横につながり、互いに響き合う「羅網」の世界を象徴している。

そのような自然是、人間が高みから保護するなどと



鞍馬寺本殿金堂

言えるものではなく、その中に包まれ生かされていることに感謝すべき存在であるから、お山では全山を鞍馬山自然科学博物苑と名付け、豊かな自然を感謝の念と共に後世に引き継いでゆくことを第一義に、傷つけたり参道以外は手を入れたりしないよう努めてきた。

- 一、鞍馬山は尊天の淨域なり 常に清浄を保つべし
- 一、山川草木 自然の実相に羅網の世界を学ぶべし
- 一、すべてのいのち輝く世界のために尊天加護を念じ精進すべし

という「境内維持遺訓」に、お山の姿勢が尽くされている。

ところが昨秋の鞍馬の火祭、暴風雨が由岐八所両明神のお旅所ご遷座を阻んだ台風21号は、お山の自然にも無残な爪あとを残した。根返りした何本もの木が参道をふさぎ、また崩落させて、奥の院への立ち入りを停止せざるを得なくなった。一ヶ月余で何とか復旧したもの、樹間からは青空がのぞき、鬱蒼とした森の雰囲気とはほど遠い。日が射し込めば、極相林などの植相も変化するだろう。大自然の前の人間はあまりにも無力である。

江戸時代には植林の記録があり、山容整備に積極的に取り組んできたことが伺えるが、近年、水が溜まり雨後にどろんこになるので歩き易さを優先したら、根っ子が土に埋まってしまった木の根道の例もある。シカやイノシシの増加など課題も多いが、あれこれ手をうたず自然に任せる方がよいのかも知れない。

二つ目は文字通り、有形、無形の文化財、それを生み出した歴史や伝統であろうか。お山は火事が多く、史書に記録を遺す大火が6回、多くの寺宝を灰にしてきている。寺に伝世する国宝2件、重要文化財6件は、先人の大きな努力により守り継がれてきたものである。その一端を伺い知る史料が、大惣法師仲間として竹伐り会、鞍馬の火祭に奉仕される岸本道覺家に伝わっている。（平成27年、寺に奉納された。）文化11年（1814）の炎上の際、鞍馬の里人、15歳以上の男子が馳せ登り、



写真上：自然の宝庫といわれる鞍馬山。四季に応じて発生する様々な自然の「キノコ」

下：本殿金堂の内陣を荘厳する羅網

尊像や寺宝を焼失から救った経緯をつぶさに知ることができる。20年近く前、落雷で山中の木が燃えた時も、地元の方がいち早く異変に気づいて駆けつけてくださり、事なきを得たのであった。

無形民俗文化財として京都市に登録されている鞍馬竹伐り会は、大惣法師、僧達、宿直という伝統を守る地元の方々が祭儀に出仕して大切な役割を担い、保存会には寺の役員と共に多く名を連ねておられる。

二つ目の宝ものは、鞍馬地区の皆さんとの連携で守り継いできたものなのである。

清新の気に満ちた年のはじめ、雪と氷に閉ざされても木々は芽を育み、やがて花をほころばせ葉を茂らせる。強い日射しを遮る木陰で憩ううち、いつしか錦をまとい葉を散らせて再び冬仕度をととのえる。春夏秋冬、規則正しい四季のめぐりの中で、雨の日も雪の日も、風の日も日照りの日も、お山に日参する人がおら

れる。お休み毎にご参拝の方、そして月参りが最も多い。みな一様にご宝前に額づき、静かに深く、熱く強く祈りを捧げておられる。お山が開創されてから、いやもっと古くお山が生まれてからずっとずっと、祈りの姿、祈りの心が共にあった。至心に祈る心こそが三つの宝ものである。

匠の技に祈りの心が加わって文化財や伝統が生まれ、生まれた尊像を拝して信仰心が涵養される。祈りの心が自然を生き活きと育み、自然の相にいのちや心を感じた時、祈りの心が甦る。お山の三つの宝ものは互いにつながり合い響き合っているが、三つが並立するのではない。祈りの心がすべてを下支えしていて、それを根っ子として自然が豊かに、歴史や伝統が花開き実を結ぶのではなかろうか。

諸行無常、生住異滅、すべてのものはうつろいゆく

とお釈迦さまはお説きになった。星ですら生まれて成長しやがて消えてゆく。実際、現代社会は多様化の一途を辿り、AIや情報技術の飛躍的な発達によって、急速に劇的に変化する様相を見せはじめている。

それでも変わらないもの、変わってほしくないものがある。伝統や文化財、自然を後世に伝えようと、多くの方々が日夜ご尽力になっている。お山もその仲間でありたいと日々努めると共に、素朴な祈りの心、信仰の象を守り継いでゆきたいと強く思う。

すべてのいのち輝く世界のために、お山は「心の故郷」「いのちの故郷」「安らぎの故郷」であり続けてほしいと切に願っている。

(鞍馬山博物館学芸員)

表紙・文中写真／田中 一郎 撮影



毎年6月20日に行われる伝統行事「鞍馬山竹伐り会式」(表紙写真掲載)

# 上徳寺の木造 阿弥陀如来立像

山下 紋美

## 1. はじめに 一京都市内の彫刻分野の文化財

京都市内にはたくさんの文化財が存在します。美術工芸品の分野のひとつである彫刻（仏像・神像・肖像・仮面などがこれにあたります）についていえば、国宝が31件、重要文化財が297件、府の指定・登録文化財が15件、市の指定・登録文化財が61件あり（平成29年

4月1日現在）、合計すれば実に404件にのぼります。このうち今回は、平成29年3月31日付けで京都市の新たな指定文化財となった、上徳寺の木造阿弥陀如来立像について取り上げます。

## 2. 上徳寺と本尊縁起

木造阿弥陀如来立像が安置される塩竈山上徳寺は、  
もとしおがま  
京都市下京区本塩竈町に位置する浄土宗の寺院です  
[写真1]。五条通以南の富小路通りに面しますが、このあたり一帯の町名は、かつて「下寺町」とされ、豊臣秀吉による都市改造によって集められた寺院が立ち並びます。また、ここは嵯峨天皇の皇子・源融の邸宅である河原院の跡地でもあります。融は邸内に、陸奥の塩竈の風景を模してつくり、興じたという故事から、明治4年（1871）に現在の町名となりました。

寺伝によれば、上徳寺は慶長8年（1603）、徳川家康によって建立された寺院で、側室の阿茶局を開基とし、伝誉一阿を開山とします。現在の本堂は、宝暦3年（1753）建立の禅林寺祖師堂が明治期に移築されたものです。

宝暦9年（1759）の奥書のある『塩竈山上徳寺本尊縁起』によれば、本尊である木造阿弥陀如来立像は、むちさき  
家康が鞭崎八幡宮（現在の滋賀県草津市矢橋）から招來したとされます。同縁起には、次のように記されます。

後鳥羽天皇の時代、木曾義仲が近江国に進軍し、そ



[写真1] 上徳寺（京都市下京区富小路通五条下る本塩竈町）筆者撮影

れにより多くの人々が心を悩ませた。時の国主はこれを憂い、八幡宮に参籠して祈ったところ、八幡神があらわれ、西方極楽浄土の教主である我を彫刻するよう告げた。国主は歓び仏工安阿弥（仏師快慶とされています）にこれを語った。安阿弥もまた深く喜び八幡宮に参籠したところ、光明の中に西方の三尊があらわれ、これを写して彫刻した。人々は歓喜し、再びこの地が治まった。それから380年を経た慶長8年、徳川家康

が鞭崎八幡宮に参詣した際にこの縁起を聞き、中尊を乞い求めて上徳寺に寄付をした——。

現在、上徳寺境内の地蔵堂には、像高2メートルほどの石造の地蔵像が安置され、「世継地蔵」として広く親しまれていますが、こうした縁起のある本尊もまた、有り難い本尊として守り伝えられてきました。

### 3. 木造阿弥陀如来立像について

さて、本尊である木造阿弥陀如来立像

[写真2] は、脇侍である木造觀音菩薩立像・木造勢至菩薩立像とともに本堂に安置されます。本尊は鎌倉時代、13世紀前半の制作、両脇侍はともに、本尊にあわせて江戸時代につくられたものと推定されます。本尊の像高は97.3センチメートルで、いわゆる三尺阿弥陀とよばれる、鎌倉時代以降の標準的な大きさです。針葉樹材の寄木造で、保存状態もたいへん良く、全身が漆箔に覆われていることから、構造の詳細を知ることは難しいですが、近年、京都国立博物館によるエックス線CTスキャン調査が行われ、像内の腹部あたりに経巻状の納入品が籠められていることがわかりました。

この調査により、他にもいくつかの興味深いことがわかりました。ひとつが頭部の螺髪です。一般的に螺髪は、彫り出したり、別造した螺髪の粒を貼り付けたりすることであらわしますが、この像においては、螺髪一つ一つが、金属製の釘で留められていることがわかりました。そして最も注目されるのが唇の表現です。朱がほどこされた上に、水晶が嵌められていることがわかりました。かすかに艶

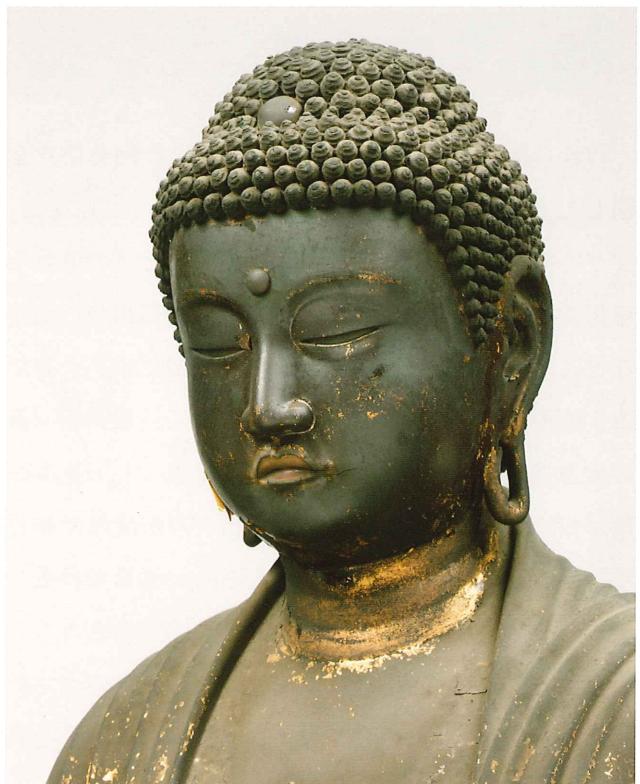


[写真2] 京都国立博物館提供

を帶びているのが、肉眼でも確認することができます  
[写真3]。

また、本像は裳裾から足先がわずかに見える状態で、右足を少しだけ前に踏み出して蓮華座上に立ちますが、見えていない足首から膝下までもがつくり出されており、それを像底にあけた孔に深く差し込んでいる構造であることが、像を台座から下ろしてみるとより確認できました。

ここで改めて像のたたずまいを見てみると、来迎印を結ぶ左右の手の上げ下ろしが、通常の阿弥陀像とは逆さになっていること、また身につけている衣も、通常の阿弥陀如来像に見られる「偏袒右肩」といわれる、衲衣が右脇を通って左肩にかかる着衣形式ではなく、右肩から左肩に渡して懸ける「通肩」とよばれるスタイルであることに気づきます。本像には、以上のような特殊な点が確認されました。



[写真3] 京都国立博物館提供

## 4. 像に見られる特殊な技法

これらの技法や表現は、いったいどのようなことが意図されたものなのでしょうか。螺髪に金属製の釘を用いた固定方法はたいへん稀であり、補強といった目的が第一とは考えにくく、近い例として考えられるのが、螺髪を銅線であらわした例です。これは、木製の芯に銅線を螺旋状に巻き付けて形成し、一つずつ頭部に貼り付けたもので、茨城・万福寺木造阿弥陀如来立像（鎌倉時代・13世紀）、神奈川・本誓寺木造阿弥陀如来立像（鎌倉時代・13世紀）、滋賀・正善寺木造阿弥陀如来立像（鎌倉～南北朝時代・14世紀）など、10例あまりが報告されています。また、最も特徴的である、唇に水晶を嵌める技法ですが、仏像の目を水晶であらわした「玉眼」の技法はよく知られており、上徳寺像にも用いられていますが、唇を水晶であらわした、いわゆる「玉唇」の像は、現在のところ、東京国立博物館木造菩薩立像（鎌倉時代・13世紀、重要文化財）、京都・仏性寺木造阿弥陀如来立像（鎌倉時代・13世紀）の2例が知られるのみです。

このように、口元を強く意識した技法の類例として「歯吹阿弥陀」が挙げられます。これは、口をわずかに開いて、歯を見せる阿弥陀如来像のことで、構造的には玉眼と同様、内割りをほどこした像内から、歯に似せた別材を口の裏にあてたものです。歯吹阿弥陀に関しては、これまでの研究で17例が報告されています。こうした銅線製の螺髪や歯をあらわす技法は、ある一定の阿弥陀如来立像に共通してあらわれる技法であり、加えてそれらには、足の裏に柄を設げず、千幅輪相（仏足文）をあらわすものが多いことがわかっています。



## 5. 生身信仰

これらは、より現実的な姿であらわされた阿弥陀を意図したものであると考えられています。『大智度論』などの經典には「三十二相」という、ほとけの優れた身体的特徴が記されます。このうち、頂髻相や白毫相などは、如来像に一般的にみられる特徴です。一方で、四十齒相（歯が40本あり白く清潔である）、歯齊相（歯の大きさが同じで美しく並ぶ）、白牙相（上下4本の歯は白く牙のように尖る）・梵声相（声が清浄で美しく、人々を感嘆させる）などといった、通常では表しがたい、口元に関する特徴を具体的に表すとどうなるでしょう。歯吹阿弥陀は、ここに拠り所があるとされており、玉唇の阿弥陀像もまた、現実味のある姿を表

現したものと考えられます。

鎌倉時代にはこの他、例えば貼毛をしたり、指先の爪を木とは異なる材であらわしたり、あるいは衣服を着せるなどの像が多くつくられるようになります。こうした流行には「生身信仰」が通底するとされ、ほとけが衆生を救うためにあらわされた姿や、釈迦そのものの姿をより具体的にあらわした像が、信仰の対象となっていた背景があるのです。足首より上をつくりだし、像底に差し込むといった構造についても、釈迦の生き写しとされる京都・清涼寺釈迦如来立像（北宋時代・雍熙2年〈985〉、国宝）との共通性が指摘されており、同様の信仰が影響するものと考えられています。

## 6. 宋代仏画との共通性

阿弥陀如来立像は、右手は肘を曲げ、左手は下におろした姿が一般的ですが、上徳寺像は、左右が逆になります。逆手の印相をあらわす早い例として、兵庫・淨土寺阿弥陀如来立像（鎌倉時代・建久6年〈1195〉、国宝）があげられます。重源の指導により、中国・宋から請來した仏画に基づいて快慶が制作したことが知られており、逆手の印相をあらわす阿弥陀像は、これに連なるものとして位置づけられます。また、上徳寺

像の整然と刻まれた衣の襞を見てみましょう。腹前から両足のあいだにかけての襞が、U字からV字状に変化していくさまは、京都・知恩院「絹本着色阿弥陀淨土図」（南宋時代・淳熙10年〈1183〉、重要文化財）に描かれた阿弥陀像などの仏画に近似します。つまり上徳寺像は、宋時代の美術の要素をうかがうこともできるのです。

## 7. さいごに

このようにして、本像は稀にみる「玉唇」の像で、生身信仰を背景とした像であることがわかりました。また、宋代美術の影響もうかがうことができ、このような複数の要素をそなえた阿弥陀像は他に例がなく、鎌倉時代に制作された彫刻を知るうえで、たいへん貴

重な作例であるとして、京都市の文化財に指定されました。

※本像は、非公開です。

（京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課技師）

# ご支援・ご協力ありがとうございました

## 特別寄附金・一般寄附金 芳名録 (2017.9.1~12.31)

(敬称略)

### 【特別寄附金】

#### 【基本財産寄附金】

##### 法人

山田織維株式会社 代表取締役 山田芳生 (京都市)

##### 個人

中村 範夫 (熊谷市)

ほか匿名2名

#### 【公益目的事業共通】

##### 個人

遠藤伊之助 (京都市)

遠藤維久子 (京都市)

中島 康榮 (京都市)

ほか匿名2名

#### 【文化観光資源保護事業】

##### 法人

車折神社 宮司 高田能史 (京都市)

##### 個人

藤森 弘子 (宇治市)

伽 健 創 (池田市)

廣瀬 功一 (京都市)

恒成 恒 (京都市)

ほか匿名5名

### 【一般(会員)寄附金】

#### 法人特別

和光株式会社 代表取締役社長 井筒平和 (京都市)

株式会社近鉄・都ホテルズ ウエスティン都ホテル京都 総支配人 加座教雄 (京都市)

#### 法人普通

壬生六斎念仏講中 会長 山根正廣 (京都市)

#### 法人賛助

十輪寺 代表役員 泉浩洋 (京都市)

廬山寺 代表役員 町田泰宣 (京都市)

合同会社あさぎり 代表社員 杉丸一美 (宇治市)

九州礎山株式会社 代表取締役 三崎正敏 (東京都)

ほか匿名4名

#### 個人特別

伊勢 初枝 (京都市)

原山八重子 (京都市)

高島 正子 (京都市)

土屋 英夫 (京都市)

渡辺 清子 (京都市)

渡邊 勝広 (京都市)

渡邊礼以子 (京都市)

田村 彰敏 (京都市)

吉岡 健 (宇治市)

浅見 喜弘 (京都市)

清水 史郎 (京都市)

今野 勇一 (高槻市)

操田 邦男 (堺市)

伽 健 創 (池田市)

佐藤 正年 (京都市)

篠原 明 (大山崎町)

川嶋 純子 (さいたま市)

中島 康榮 (京都市)

中井 卓治 (流山市)

八木代志子 (向日市)

川嶋 博 (さいたま市)

林 節治 (京都市)

宮田 喜義 (京都市)

仲谷 滋 (龜岡市)

山口 彰 (京都市)

伊藤 昭 (京都市)

川上 信也 (流山市)

ほか匿名7名

#### 個人普通

伊勢 芳夫 (尼崎市)

山本 喜康 (京都市)

砂田 岩男 (広島市)

保坂 晶子 (長野市)

伊勢 和夫 (京都市)

加藤 安恵 (京都市)

鈴木 和子 (京都市)

稻垣 誠夫 (宝塚市)

毛利夕カ子 (八幡市)

谷山 正昭 (茨木市)

谷口 幸治 (京都市)

村川とし子 (芦屋市)

升山 春彦 (京都市)

村川 伴子 (京都市)

高木 陽子 (京都市)

宮田 千秋 (京都市)

大倉千枝子 (京都市)

牛尾 忠子 (姫路市)

長谷川通一 (京都市)

高原 一江 (長岡京市)

藤本喜久枝 (八幡市)

富永 由子 (京都市)

北村 雄司 (京都市)

岩崎 進 (京都市)

杉本 昌夫 (京都市)

富永 文雄 (京都市)

三崎 正敏 (東京都)

岩崎 好江 (京都市)

白井 房枝 (京都市)

渡辺三根子 (枚方市)

鈴木 豪 (八幡市)

川口 幸司 (名古屋市)

田上進一郎 (大阪市)

奥野 勝 (京都市)

松井 札子 (京都市)

藤戸 浩二 (枚方市)

大村 玲子 (草津市)

山下 淑夫 (京都市)

林 節子 (鎌倉市)

山田 享子 (京都市)

本道 隆子 (藤枝市)

岩井 至栄 (京都市)

林 詠子 (八幡市)

ほか匿名20名

#### 個人賛助

富岡みさを (京都市)

山本 光子 (京都市)

南野 匡利 (大阪市)

北村 太一 (室蘭市)

石井 小雪 (京都市)

大崎美由紀 (倉敷市)

山中 太郎 (京都市)

宮本としか (吹田市)

佐野 雅信 (八尾市)

城戸 進 (京都市)

岡林 信子 (京都市)

福田ゆかり (川崎市)

岡野 智子 (枚方市)

榎 敏夫 (京都市)

山上 徹 (京都市)

水嶋 啓之 (京都市)

原田 浩 (京都市)

藤井 文二 (京都市)

浜田 直人 (尼崎市)

沖野 直子 (高槻市)

原田 真弓 (京都市)

岡村小枝子 (京都市)

青山 郁子 (川崎市)

松田 しみ (神戸市)

野上 俊子 (京都市)

大西 淳 (高槻市)

堀 久子 (京都市)

谷田 輝惠 (京都市)

大原 貞子 (大阪市)

中辻壽美子 (城陽市)

山本 朋美 (京都市)

藤岡 嵩久 (東京都)

仲本 仁江 (草津市)

竹谷万喜雄 (明石市)

藤岡 嵩久 (東京都)

ほか匿名12名

※各ご芳名は、寄附受納日順に掲載しています。

### －京都の文化遺産を守り伝える活動の輪を更に広げるために 皆様のご支援・ご協力をお願いいたします－

◇皆さまからのご寄附や新しい会員募集の呼びかけに一層のご支援とご協力をお願いします。

◇寄附金は税の優遇措置を受けていただけます。当財団は「公益財団法人」として認定を受けていますので、寄附金は特定公益増進法人として税制上の優遇措置が適用されます。個人の方は確定申告により所得税の税額控除を、法人においては法人税の損金算入が認められています。

また、京都府・市にお住まいの方は、個人住民税（京都府民税、市民税）の控除が適用されます。

## 計報



### 山口 昌紀 顧問・前理事長 逝去される

去る平成29年12月8日に、当財団顧問・前理事長の 山口昌紀 近鉄グループホールディングス株式会社相談役（81歳）がご逝去されました。

平成20年から約9年間にわたり理事長として、財団の発展に多大なご尽力をいただき、また設立当初より京都の文化観光資源の保護に深いご理解とご支援を賜っておりました。理事長退任後も、顧問として引き続きご指導をお願いしておりましたところ誠に残念でなりません。事務局では、生前のご功績に報いるよう、財団のさらなる発展に取り組んでまいりたいと存じます。

慎んでご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

## 保/護/財/団/の/活/動/

### 基本財産に法人2件、個人7名から720万円の寄附金を頂きました。

これまでに当財団の基本財産にと、法人2件、個人7名から720万円の寄附金を受領しました。

なかでも、埼玉県熊谷市在住の中村 篤夫 様から日本の大事な京都の文化観光資源の保護に少しでも役立てて下さいと、当財団の設立趣旨が最もふさわしいとしてご賛同いただき、600万円のご寄附をお寄せ頂きました。

事務局では、この寄篤なご厚志に感激するとともに、感謝状を授与し、深く感謝の意を表しました。  
寄附者の中村 篤夫 様(右)に和田 隆夫 専務理事(左)より感謝状を授与しました。



### 文化観光資源保護事業

#### 平成29年度 専門委員会を開催し、文化観光資源保護事業助成対象に49件が選定されました。

去る平成29年11月30日(木)に平成29年度専門委員会を、4名の委員出席のもとに開催し、議題の当委員会委員長及び副委員長の選任、平成29年度文化観光資源

保護事業助成対象について審議されました。

審議の結果、委員長に尼崎博正京都造形芸術大学教授、副委員長に高橋康夫京都大学名誉教授が互選により再任されました。平成29年度文化観光資源保護事業の助成対象の選定では、申請がありました文化観光資源保護事業に関して、事務局より実地調査結果及び資料をもとに各事業内容を説明し、本年度申請がありました49件すべてが助成対象に選定されました。

#### 平成30年度文化観光資源保護事業助成申請の相談を行います。

京都市域の文化観光資源や伝統行事、伝統芸能などを保存継承することを目的に、当財団の主たる公益目的事業として、助成事業を行っています。平成30年度において計画されている保護事業について、助成申請の相談を下記のとおり行います。

#### ■助成申請募集事業

平成30年度（平成30年4月1日～平成31年3月31日）において、京都市域の文化観光資源所有者・管理者、伝統行事、伝統芸能保存団体などが行う下記の事業のうち、当財団が定める文化観光資源保護事業助成金交付対象選定基準に該当する事業。

- (1) 文化財所有者・管理者等が行う文化観光資源保護事業
- (2) 伝統行事、伝統芸能の保存及び執行事業
- (3) 文化観光資源をとりまく自然環境の保全及びその整備事業

#### (4) 文化観光資源施設の整備事業

※詳しくは、当財団のウェブサイト「2018年度文化観光資源保護助成事業実施要領」をご覧下さい

##### ■助成申請事前相談

日 時 4月2日(月)～30日(月) 平日9時～17時

場 所 当財団事務局（事前に予約連絡が必要です。

相談者は、申請者に限ります。）

※事業計画書、資料など事前審査のうえで、当財団のウェブサイトから申請していただきます。

### 普及啓発事業

#### 京の文化財探訪 紅葉の醍醐を訪ねて 文化財特別鑑賞事業を実施しました。

昨年の11月23日(木・祝)～25日(土)に、京の文化財探訪 紅葉の醍醐を訪ねて「醍醐寺別格本山 理性院」「長尾天満宮」「赤間薬師」文化財特別鑑賞事業を実施しました。3日間の実施でしたが、会員をはじめ一般参観者、招待者など494名の参観がありました。紅葉が深まる醍醐を散策しながら、3か所の非公開文化財などを、京都の文化財を守る会ボランティア部会の皆さんの案内説明により特別鑑賞していただきました。



#### 平成29年度伝統行事・芸能功労者を表彰、 文化観光資源保護協力者に感謝状を授与

京都の伝統行事・芸能の保存継承に功績（原則として10年以上・年齢45歳以上）のあった功労者を、称え毎年表彰を行っています。本年度は、下記の9名の方々を決定し、2月27日開催の当財団通常理事会終了後、表彰式を行いました。又、当財団の設立趣旨にご賛同いただき、基本財産に多額のご寄附を寄せていたきました個人2名に文化観光資源保護協力者として、感謝状を授与しました。

#### ◇伝統行事・芸能功労者（順不同・カッコ内は年齢）



桂川舟渡し保存会  
中村 桂介 氏 (64)



千本ゑんま堂大念佛狂言保存会  
宮田 勝行 氏 (45)



嵯峨大念佛狂言保存会  
小西 和子 氏 (77)



嵯峨野六斎念佛保存会  
北村 覚 氏 (61)



西方寺六斎念佛保存会  
吉田 慶治 氏 (64)



川上やすらい踊保存会  
田中 敏雄 氏 (79)



上賀茂やすらい踊保存会  
北波 伸一 氏 (50)



北白川伝統文化保存会  
前田 久直 氏 (54)



修学院紅葉音頭保存会  
中島 静子 氏 (75)

#### ◇文化観光資源保護協力者

##### 特別寄附金（基本財産）寄附者（順不同・敬称略）

伊勢 初枝（京都市左京区）

中村 範夫（埼玉県熊谷市）

## 京の文化財探訪 嵐山の古仏を訪ねて 「清涼寺(嵯峨釈迦堂)」・「薬師寺」・「慈眼堂」 文化財特別鑑賞を実施します。

京の文化財探訪事業は、京都の文化財や観光資源、史跡などを訪ねながら鑑賞していただくことで、京都の歴史や文化観光資源について、理解を深めていただき、その保護の普及啓発につとめるとともに当財団の活動への支援協力を呼びかけるため実施しています。

今回の当事業は、京都市右京区嵯峨において実施します。当地域には、古い歴史や伝説がある数々の諸像

が、伝えられています。普段、非公開の仏像などを、特別鑑賞していただくことで、嵯峨の歴史や文化に触れることができます。

- 日 時 平成30年4月20日(金)・21日(土)・22日(日)  
午前10時～午後4時
  - 対 象 清涼寺、薬師寺(京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町)、慈眼堂(嵯峨尊院門前北中院町)
  - 参観料 一般 1,000円(3か所共通・高校生以上・現地にて受付)
- ※詳しくは、事業案内チラシ、ウェブサイトをご覧下さい。

## 会員事業のご案内

会員事業を下記のとおり実施しますので、参加ご希望の方は、各内容によりお申し込み下さい。

### ◆京の三大祭観覧ご招待

本年行われます京都の三大祭「葵祭」「祇園祭」「時代祭」において特設します当財団の招待観覧席にご招待します。

事業No.17009

#### 「葵祭」行列観覧

●日 時 5月15日(火)

午前10時30分行列出発

●観覧場所 京都御苑内 当財団招待観覧席

●申込定員 40名



事業No.17010

#### 「祇園祭」前祭山鉾巡行観覧

●日 時 7月17日(火)

午前10時30分頃(山鉾先頭到着時間)

●場 所 京都市役所前 当財団招待観覧席

●申込定員 40名



※「京の三大祭観覧」ご招待は、本年行われます葵祭・祇園祭・時代祭のいずれか一つに限りますのでご了承下さい。なお、時代祭行列観覧は、次号の会報でご案内します。

※特別会員の方は、ご招待しますので申込みは不要です。特別寄附者の方は、寄附日によっていずれかにご招待します。

事業No.17011

### 京の文化財探訪 嵐山の古仏を訪ねて 「清涼寺(嵯峨釈迦堂)」・「薬師寺」・「慈眼堂」 文化財特別鑑賞 ご招待

京都の文化観光資源保護普及啓発事業として、実施します当事業にご招待します。嵯峨の長い歴史のなかで、人々の祈りと信仰によって護られてきた普段は非公開の仏像などを、特別鑑賞していただきます。案内説明を「京都の文化財を守る会」ボランティア部会の皆さんが出ています。

●日 時 4月20日(金)～22日(日)

午前10時～午後4時まで

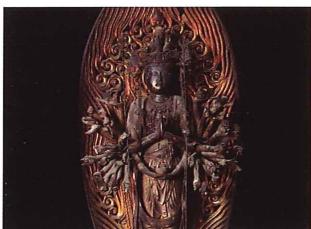
(受付は、午後3時30分まで。ご都合の良い日時にお越し下さい。自由拝観)

●所在 地 清涼寺、薬師寺(京都市右京区嵯峨駿河堂藤ノ木町)、慈眼堂(嵯峨尊院門前北中院町)

●参加費不要(ご招待)

※招待事業になりますので、申込みは不要です。会報送付時に同封しています当事業の“参観証”を現地受付にご持参下さい。

なお、当事業は、会員以外の同伴の方にも参加していただけます。ただし、参観料お一人1,000円(3か所共通)が必要です。現地受付でお申し出下さい。お誘いあわせのうえ、お越し下さい。



写真左／清涼寺本堂内観  
右／薬師堂境内  
下／慈眼堂千手觀音立像

事業No.17012

京都古文化保存協会主催「平成30年度 春季  
京都非公開文化財特別公開」にご招待

普段非公開の神社、寺院の文化財を特別公開される京都古文化保存協会主催の当事業にご招待します。

●日 時 4月27日(金)～5月6日(日)

午前9時～午後4時

●対 象 上賀茂神社、大徳寺本坊、櫻谷文庫(以上 北区)、北野天満宮、相国寺養源院(以上 上京区)、岩倉具視幽棲旧宅、下鴨神社、金戒光明寺山門(以上 左京区)、壬生寺(中京区)、知恩院大方丈・小方丈・方丈庭園、東福寺龍吟庵(東山区)、東寺五重塔(南区)、仁和寺金堂・本坊(右京区)、城南宮、大黒寺、長建寺、法傳寺、妙教寺(以上 伏見区)、石清水八幡宮(八幡市)

●申込定員 300名

※上記の対象神社、寺院の中から2か所を自由に参観していただけます。

事業No.17013

世界文化遺産「總本山 醍醐寺」文化財特別鑑賞

世界文化遺産「古都京都の文化財」に登録され、千余年にわたる歴史と真言密教、修験道を伝える總本山 醍醐寺を訪れます。当寺の歴史などについて講話をいただき、建築、庭園をはじめとする文化財を、案内説明のもとに特別鑑賞します。



●日 時 5月25日(金) 午後1時～3時30分(予定)

●所在 地 京都市伏見区醍醐東大路町

●申込定員 80名

●参加費不要

●協 力 総本山醍醐寺、京都の文化財を守る会

■申込方法

当会報とあわせて送付しています「会員ご招待・優待事業申込」ハガキ又は当財団ウェブサイトの会員サイトからお申込み下さい。お申込みの際は、必ず事業No.をご記入下さい。

■申込資格 会員本人様1名に限る

■申込締切日 4月10日(火) 必着

※上記の会員事業は、申込多数の場合は抽選とし、当選者の方のみにご案内を送付させていただきますのでご了承下さい。

■お問合せ

(公財)京都市文化観光資源保護財団 事務局

会員事業担当

TEL 075-752-0235 (平日9:00～17:00)

FAX 075-752-0236

## 会員事業を実施しました。

### ◆京の三大祭「時代祭」行列観覧招待(10月22日) は、台風のため中止になりました。

楽しみにしていただいていました昨年の時代祭行列が、あいにくの台風21号による参列者や観覧者の安全確保のため、29年ぶりに中止になりました。残念でしたが、また本年の行列にご期待下さい。

### ◆初秋の大原野を訪ねて「大原野神社」と「勝持寺」 文化財特別鑑賞(11月4日)

紅葉が色づくなか73名の会員の皆さんに出席いただき実施しました。午前の大原野神社では、はじめに全員で本殿を正式参拝させていただき、続いて齋藤昌通宮司さまと権禰宜さまのご案内のもと境内の社殿や土俵場を参観し、当社の由緒や信仰について、ユーモアを交えたお話を聞きしました。午後は、勝持寺に再集合し、中村真容住職さまから当寺の歴史と重要文化財の諸仏について、詳しいお話をいただき、境内を自由拝観しました。また、全員に記念にと立派な絵葉書まで頂戴しました。皆さん風情ある初秋の大原野を一日楽しまれました。



### ◆文化財特別鑑賞「吉田神社」を訪ねて(12月22日)

年末、年始に向けてお忙しいところ当神社の特別なご協力のもと実施しました。当日は、73名の皆さんの出席があり、はじめに吉田神社の室川喜幸禰宜さまから「吉田神社の歴史、文化財と節分」について、写真や資料、節分祭の追儺式で使用される仮面、弓などを拝見しながら詳しくお聞きしました。続いて、本殿を正式参拝し、ご案内のもと重要文化財の斎場所大元宮をはじめ社殿を参拝しました。



### ◆後援事業「第52回京の冬の旅」 非公開文化財特別公開に招待

公益社団法人京都市観光協会主催「京の冬の旅～秘められた京の美をたずねて～」非公開文化財特別公開に招待しました。今回は、「明治維新150年記念」と「西郷隆盛」をテーマに、ゆかりの寺院などが特別公開されることから申込みも多くいただきましたので、全員にご希望どおりの案内をいたしました。

## 会員通信

(一部・敬称略)

●先日、泉屋博古館で木島桜谷展を拝見しました。何年か前に京の夏の旅で木島邸の公開があり（その折は文字通りお屋敷の見学のみ）京都の文化財は、尽きることがないと感激したものです。画家としてはあまり正当な評価をされなかった方ですが、邸の公開がきっかけで、今表舞台に立たれ嬉しい思います。これからも埋もれた文化財の発掘を楽しみにしています。(永尾正章)

●大原野神社の案内、正式参拝、また勝持寺では瑠璃光殿でのご住職の解説と初秋の大原野を堪能しました。吉田神社は参拝した事はありましたが、禰宜様から由緒、権宮司様から境内のご案内をして頂き、理解を深めました。ありがとうございました。一般では拝観できない寺社のご案内、今後も楽しみにしております。(田中一幸)

●大原野神社の宮司さんのお話が面白く為になつた。勝持寺に以前おられた如意輪観音半跏像にも、となりの願徳寺で再会できてよかったです。足の便が悪くて中々来れなかつたが、いい季節に訪れることができて、良かった。絵ハガキや絵馬などおみやげも沢山頂きありがとうございました。いつも楽しみにしています。お世話、ありがとうございます。(渡辺三根子)

●自然に恵まれた大原野地域で歴史を感じられたので、有意義な催しました。今後も不便であることから訪れる機会を逃しているような場所を紹介して頂けたら有難いです。(吉井豊)

●スタッフの皆様いつもありがとうございます。大原野には今春桜の頃行きました、紅葉の頃もいいなーと思っていました。大原野神社のイケメン禰宜の説明楽しかったです。(井戸礼子)

●一年間有難うございました。来年も宜しくお願いします。(宇治市・山本)

●京都ということばを聞きますと、それだけで心がなごむ思いがして参りましてあちこちの名所旧跡が頭に浮かんできてなつかしい感じがします。京都の良さは、永久に消えるものでなく、それでいて何か新しい雰囲気をつくり出してくれているように思い、やはり日本の京都だとつくづく感じます。(中村範夫)

※当財団に関することや京都の文化財・祭り・観光等に関すること、会員事業に参加された感想などお便りをお待ちしています。当会報や会員サイトの“会員通信”に掲載し、ご紹介させていただきます。

## 京都市文化観光資源保護財団のウェブサイト

－京都 その文化遺産の保護と未来のために－  
<http://kyobunka.or.jp>

京都の文化財、伝統行事芸能や当財団の実施事業、情報公開などを発信しています。また、会員専用サイトでは、会員事業の案内・申込みや会員皆さんからのお便りなど掲載しています。



京都市文化観光資源保護財団 会報 No. 121  
発行日 / 2018年(平成30年)3月10日

編集・発行 / 公益財団法人 京都市文化観光資源保護財団 事務局  
印 刷 / 株式会社 国書印刷 同朋舎  
京都市東山区三条通大橋東二町自73番地2 京都三条大橋ビル3階  
TEL 075(752)0235 <http://www.kyobunka.or.jp>

平成30年3月10日